

第43回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第43回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	令和元年6月21日（金） 午後3時～
開催場所	河内長野市役所 602会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	0人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<p>議題</p> <p>(1) 河内長野市地域公共交通会議副会長及び監事の指名について</p> <p>(2) 河内長野市地域公共交通会議について</p> <p>(3) 「平成30年度各コミュニティバス等（モックルコミュニティバス、日野・滝畑コミュニティバス、楠ヶ丘地域乗合タクシー）」の利用状況について</p> <p>(4) 令和2年度生活交通確保維持改善計画（フィーダー）認定申請について</p> <p>(5) 高齢者公共交通利用促進事業について</p> <p>(6) その他</p>
会議内容	別紙会議内容のとおり

第43回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
事務局	（第43回河内長野市地域公共交通会議開会の案内）
島田市長	（島田市長より委嘱状交付）
島田市長	（島田市長より挨拶）
事務局	（事務局より委員と事務局職員の紹介）
榊井会長	<p>➤ この会議でご意見をいただいて平成29年度末に策定した「河内長野市地域公共交通計画」に基づき、「高齢化の進展に対応した公共交通の実現」や「地域住民・交通事業者・行政の協働による取組みの推進」等に力を入れたいと考えている。公共交通は、単に交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくりとの連携や、地域全体を見渡した面的なネットワークの構築が求められている。委員の皆様には、様々な視点で御議論いただき、本市にとってより良い公共交通のあり方を検討していきたいと考えている。</p>
榊井会長	<p style="text-align: center;">議題（1）河内長野市地域公共交通会議副会長及び監事の指名について</p> <p>➤ 副会長に日野委員、監事に黒田委員、山田委員を指名させていただきたいが、よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（審議の結果、承認を得る）</p> <p style="text-align: center;">（副会長及び監事から一言（以下のとおり））</p>
日野副会長	<p>➤ 最近、高齢者に限らず非常に交通事故の話題が多く、人の移動に関して車の運転とはまた違ったモードに転換しなければいけないということだが、公共交通のサービスが悪いところでは中々それができないということで、運輸局さんに知恵を絞っていただいて、規制緩和をはじめとして様々な仕組みを考えていただいているところである。一方、ヨーロッパでは「モビリティアズサービス（MaaS（マース））」といって、公共交通を中心に様々なモードを一体的に一括でサービス提供しようという考え方がある。イギリスに行かれていた伊勢先生には次回以降に情報提供をお願いできたらと考えているが、例えば、フィンランドではスマホ等を使って検索すると、行先への経路・手段・経費等がすべて分かり、予約すると一括決済できるというシステムがあり、公共交通の利用が2～3割増え、自動車の利用率が下がったという報告がある。一方、日本では自動運転の実装実験や大手メーカーのオンデマンドの配車サービス等が取り上げられている。本市は公共交通については他市と比べて先行しているといえるが、十分とはいえないところもあるといえる。世の中の社会情勢を見て、運輸局さんのご指導もいただきながら、新たなサービスの提供の在り方を皆様にはお考えいただき、ご意見をいただきたい。</p>

	伊勢先生ともども色々な情報を提供していきたいと考えている。
黒田委員	➤ 微力ではございますが職責を全うしたいと思います。よろしくお願いいたします。
山田委員	➤ 精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
事務局	<p>議題（２）河内長野市地域公共交通会議について （事務局よりこれまでの地域公共交通会議の活動内容と今後の活動予定について説明）</p>
事務局	<p>議題（３）「平成３０年度各コミュニティバス等（モックルコミュニティバス、日野・滝畑コミュニティバス、楠ヶ丘地域乗合タクシー）」の利用状況について （事務局より議題（３）の資料について説明）</p> <p>（各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり）</p>
日野副会長	➤ フリー乗降の課題・今後の展開、くすまるの一部ピーク時のデマンドの仕組み検討、モックルカード・なっち・バスロケアプリの高齢者対象の使い方教室の検討、日本遺産をサポートするようなサービスの試行、ヨーロッパの最新の公共交通利用促進策であるMaaS（マース）等の話題について、今ここでよろしければ順番に話題にさせてもらいたい。
日野副会長	➤ フリー乗降については、南海バスさんと警察さんにご尽力いただいております。都市部では非常に珍しい試み。何か課題が出ているのであれば解決策を考えるとということ、協議・検討し、ルール化することを前から申し上げていた。現状や課題を南海バスさんからお聞きしたい。
南海バス （吉岡氏）	➤ 荘園町は２０１１年、南青葉台は２０１３年にフリー乗降を開始した。利用方法・乗り方降り方が長い年月で薄れてしまっているところはある。降車時、急には止まらないこと、カーブや坂道では止まらないこと、乗務員判断で安全のため違うところで止まることに対するご理解のうえで成り立つ制度と考えている。他の地区での導入は、坂道や交通量といった問題を解決していかないとなかなか難しいところがある。
榊井会長	➤ 実家が南青葉だが、地域の人の評判がいい。停留所と停留所の間に整形外科があり、みんなそこで降りたいそう。非常にいいルールだと思う。今日はバス運転手の方（坂本委員）も来ておられるが、皆がルールを理解しているのか、フリー乗降のことを知らない人とトラブルにならないか、運転者さんに負担を掛けているのではないかと考えている。地域で、この取り組みを聞いてやりたいなという話も聞く。通過交通があるところは無理だと思うが、地

	元の人がルールしっかり決めることで、担当課と相談して、事業者さんといろいろできるのではないかなと考えている。
日野副会長	➤ バスの利用者数の増減はどうなっているか。
南海バス	➤ 人口が減っている中で増加させるというのはなかなか難しいところがあるが、フリー乗降区間外の減少幅と比べると、フリー乗降区間内は下がってはいるが鈍化している。一定の効果が出ているといえる。
日野副会長	➤ 坂本さんにもコメントを頂きたい。
坂本委員	➤ 乗務員目線での意見になってしまうと思うが、聞いていただけたらと思う。始めた当時は、体の不自由な方、妊婦さん、松葉杖の方に利用していただけたらということだった。当時、荘園町の自治会長さんが皆を集めて、健康な人は、荷物がある場合などはフリー乗降で乗ってもらって構わないが、そうでなければバスが遅れないためにバス停まで行ってくださいと伝えていた。安全な運行のためには地域住民の協力が欠かせない。事故は発生してからでは遅いという気持ちが強い。坂道は特に危ない。乗降の前後にバスの前に立つことや車いすでななめに乗ることは危険。乗車だと、分かりにくい合図を出す人がいたり、10m置きに3人立っていることもある。交差点で待っている人がいるが、道路交通法で交差点では止まらない。通り過ぎたところで止まると、何故待っているところで止まってくれないのかと苦情になることがある。降車だと、声掛けをする前に席を立つ人は、ブレーキを踏んだら転んでしまうことがある。できるだけ大きな声で言ってほしいが、一番後ろで本人は声を出しているつもりでも、クーラーがかかっていたりで運転席まで聞こえにくいこともある。前の方で待っていただくか、大きな声でいただければと思う。また扉があくと降りたという認識で降車ランプが消えてしまうので、もう一度降車ボタンを押してもらわないといけない。乗務員も気を付けているが、気づかずに通りすぎてしまうことがある。
榊井会長	➤ 本当に現場の声というのは、私も気が付かなかったところがあって、今のような話を自治体や地元と一緒にすることで、より安全に、ドライバーの方に負担がかからないようにすることがこの制度を継続していく中で一番大事だと思う。
日野副会長	➤ 良いサービスであれば改善しながら継続していくということで、今おっしゃったようなことを、地元ともう一度やり直すというのは当然のことだと思う。今後の展開として、他の団地等からフリー乗降をできないかといわれた時の対応に一定のルールを設けることを考えられないかと思っている。地域の中で議論していただいて申請してもらい、申請があった時に道路や交通の状況に基づいて議論して、それを受けられるかを判断する。説明会があって、その後試行があって、やってみたあとの評価があって、本格運行する。運行後、ご説明があったように、ある程度の期間でもう一回評価をした方がいいと思

<p>岩佐委員</p>	<p>う。問題を地元と共有することは非常に大事で、それによって地域と交通事業者さん、警察との連携感がより出てくると思う。既存のものはチェックしながら地元とやっていく形にする、新規が出てくる場合には安全性等をチェックしてできないをはっきり言っていくようにするなど、もし可能であればこれを機にご検討いただけたらと思っている。</p> <p>➤ いわゆるニュータウンでの導入は数年前にここで初めてさせていただいた。最大の課題は、バス停でない所で乗降扱いしていることだと考えている。バス停であれば公安委員会が認定した所で安全だが、そうでないところでやるということはそれだけの危険性が伴う。運転手さん、お客様、地域の方の三者のご協力・ご理解があってはじめて成立する制度とご理解いただけると非常にありがたい。先ほど坂本さんからあったように、例えば、道交法上ありえないことだが、交差点上でバスが止まって乗降扱いしていて、小さい子や自転車がバスの陰から飛び出してきて、後続車がバスを避けて走るときに轢いてしまったとなると、たちまちフリー乗降の危険性が訴えられ、止めなさいという話になりかねない。当初は住民説明会等で今言った話をさせていただいたが、始まって数年経ち少し薄れつつあるので、三者の理解という中でこの制度があることをもう一度理解していただいて、まずは維持していくこと。定着していくなかで拡大というのが見えてくれば拡充していくのもありだと思うが、やはり薄れてきているので、我々も車内放送を見直したりバス停に掲示物を張ったりといったことをこれから努力していきたい。引き続き皆様のお力添えをお願いしたい。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ 6か月おき、1年おき、あるいは町会の役員が交代される時期等に、一緒に協議するようなルールにする等、ご提案いただけたらと思っている。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局より、全体の会議進行の関係上、残りのテーマは事務局と各事業者とで調整のうえ、次回議論できる場をとらせていただければとの発言有り。)</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ それで結構だが、モックルカードやなっち、ICOCA や PITAPA 等の使い方がややこしいのではないかと思うので、そういったカード等の使い方と、せっくなのでバスロケーションの仕組みを1回で教えてもらえるような教室を開いてもらおうと我々高齢者にとって面白く、暇つぶしにもなってよいと思うので、可能であればご検討いただきたいと思う。それから、日本遺産の方は、観光地同士を繋ぐのにバス等を走らせなければならないのであれば、ここでの議論が必要になるので、一度観光担当の方にご提案いただけたらと思っている。</p>
<p>太口委員</p>	<p>➤ おっしゃっていただいたとおり、日本遺産に認定されている金剛寺・観心寺は東西に離れており、残念ながらその間を繋ぐ二次交通の路線が存在しない。第一交通さんの方で、タクシーの周遊という形では実現させていただいているが、まだ残念ながら多く利用いただいているわけではない。今年の秋、季節のいい時の日曜日だけが、二一ズ調査も兼ねて、三日市町駅と観心寺・</p>

くろまろの郷・金剛寺を結ぶ不定期的なバスの試験運行をさせていただく。ただし、いわゆるバス路線ではなく、すべて無料で乗っていただく形になる。今は議論していくためのデータが何もないので、秋の試験運行を受けて、バス路線の必要性等について公共交通会議に報告・提言させていただき、皆様にはご意見をいただけるとありがたい。

日野副会長

- 地域を歩いたり紹介したりが最近流行りだと思う。テレビで河内長野をよく見るので、そういう意味では河内長野は様々な資産・財産を持っていると思う。今までのような山の手だけではなく、全体として観光とタイアップできるのではないかと思ったので、この機会にぜひ併せてご検討いただけたらと思っている。

榊井会長

- データが出てまとめた中で、公共交通がどういう形でマッチングしていくかということ報告して、皆様にご審議いただきたいと思っている。

議題（４）令和２年度生活交通確保維持改善計画（フィーダー）認定申請について

（事務局より議題（４）の資料について説明）

（審議の結果、承認を得る。併せて、様式変更やダイヤの一部改正等の実施要項に規定のある範囲内の変更については、事務局に一任する旨、了承を得る。）

議題（５）高齢者公共交通利用促進事業について

（事務局より議題（５）の資料について説明）

（各委員の主な発言内容は以下のとおり）

榊井会長

- タクシーだと１回に２００円分のチケットが使えて、例えば３人で乗れば２００円ずつで６００円使える。タクシーの初乗り乗車券が６８０円だったか、莊園町の方が３人で市役所まで８０円で来れると。それで市役所の食堂も新しくなったからそこでご飯を食べて帰るとか、楽しいことを言ってくれました。こんな風にどんどん使ってくれさううれしい。ちょっとでも皆さんが元気になることをできたらいいと思って取り組んでいる。

議題（６）その他

（事務局より議題（６）の資料（バスの乗り方教室の実施）について説明）

（政策企画課より「近未来技術等社会実装事業」について説明）

（各委員の主な発言内容は以下のとおり）

<p>日野副会長</p>	<p>➤ 自動運転という技術は技術として、公共交通としてどんな形で実際運用できるのかというのは運輸局さんに色々ご指導いただかなければならないと思っている。何かアドバイスをいただけたらと思う。</p>
<p>小森委員</p>	<p>➤ 技術的に全然至っていないので、今の段階では手動で動かすことになるかと思う。自動運転になったとしても、東京の方で自動運転の事故もあり、ある程度は人の監視が必要だと思う。ただし、そのような状況では使いにくいのではないかという気がしている。どういう管理体制をとっていくのか検討していかないといけない。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ 警察の方では、将来的に自動運転になった時に従来の道交法の対応でよいのか等、議論されていることはあるか。</p>
<p>宿南委員</p>	<p>➤ 今すぐにはないと思うが、一般車と歩行者・自転車との差別化を理解しないと安全性がとれない。事故の責任はどこにあるのか、相手方との責任関係がどうなるのかという問題が残ってくると思う。</p>
<p>村上委員</p>	<p>➤ 自動運転はなかなか新しいことでいいと思う。しかし、南花台周辺の買い物・通院に対する利用価値はあると思うが、市民一般の生活から見て、あの坂道を自動運転で降りて最寄りの駅に行くのは大変だと思う。用途を絞って、採用した時に市民に利益を生むように検討されたらよいのでは。</p>
<p>榊井会長</p>	<p>➤ （政策企画課からの説明内容で）ラストワンマイルという話があった。南花台であれば路線バスの停留所から家までのワンマイル、1.6キロ程の短い距離になる。こういうものは公共交通を補完するものであって、バスに乗りやすいように、買い物に行きやすいようにと行った、お互いに便利になることだと思う。それが駅まで行くととなると、公共交通との関係・距離感が大変難しくなる。もし南花台でうまくいけば、他のところで、一般の方がより暮らしやすいように、色々なかたちが出てくると思う。今回の実験はまずその始まりだと思う。</p>
<p>榊井会長</p>	<p>➤ 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。</p>

第43回河内長野市地域公共交通会議 名簿

	氏名	所属・役職	出欠状況
会長	榊井 繁春	河内長野市 副市長	
副会長	日野 泰雄	大阪市立大学 名誉教授	
委員	伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	
委員	後藤 孝行	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 首席運輸企画専門官	欠席
委員	小森 成人	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 輸送部門 首席運輸企画専門官	
委員	松井 利公	大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 公共交通計画グループ 課長補佐	
委員	西端 薫	大阪府 富田林土木事務所 地域防災担当参事兼地域支援・企画課長	
委員	宿南 英昭	大阪府 河内長野警察署 交通課長代理	
委員	秋元 克之	南海バス株式会社 企画部 企画課長	
委員	岩佐 浩二	南海バス株式会社 営業部 営業課長	
委員	坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
委員	林 邦昭	大阪第一交通株式会社 長野営業所長	
委員	坂部 英嗣	近鉄タクシー株式会社 南大阪営業所 副所長	
委員	中野 崇	南海電気鉄道株式会社 鉄道営業本部 統括部 課長	代理：西村課長補佐
委員	山本 恒平	近畿日本鉄道株式会社 総合企画本部 計画部 課長	代理：桑名主査
監事	山田 昭儀	河内長野市老人クラブ連合会 会長	
委員	上野 修二	河内長野市観光協会 会長	
委員	西尾 元嗣	河内長野市商工会 副会長	
監事	黒田 良子	市民公募	
委員	村上 靖毅	市民公募	
委員	東部 昌也	河内長野市市民保健部長	
委員	亀井 則彦	河内長野市福祉部長	
委員	太口 智裕	河内長野市環境経済部長	
委員	梅谷 武博	河内長野市都市づくり部長	
委員	小西 昌敏	河内長野市総務部長	欠席
委員	小林 章良	河内長野市総合政策部長	